

大学教育の質保証における 成績評価の意味を問い直す

マクロ・メゾレベル(大学・学部等)においては、学修成果・教育成果の可視化の必要性が認識されはじめ、本学においても教学IRセンターでの取組が本格化してきています。他方、学修成果の指標にしばしば使われる成績及びその評価については、初中等教育における教育評価と比較すると、理念の浸透や実施において課題があります。

本学においては、成績評価の改善のために平成24年度にGPA制度を導入して以降、毎年度成績評価の分布やGPAの平均などの共有を行ってきました。制度創設から10年を経過し、教育成果・学修成果の可視化をその中心に据える教学IRの取り組みも始まった今、成績評価の理念と国内外の状況について学び直し、今後の成績評価のあり方を検討する必要があります。そこで令和4年度第2回高等教育セミナーでは専門家をお招きし、大学における成績評価の理念と近年の動向・事例などを学ぶことで、個々の教員が自らの成績評価について振り返るとともに、学部等・本部等における成績評価のあり方を検討する機会とします。

〔開催日時〕

令和4年 **11月30日(水)** 14:40～16:10

〔講師〕

東北大学高度教養教育・学生支援機構 准教授 **串本 剛 先生**

〔会場〕

滝沢:講堂

宮古:管理研究棟2階 大会議室

- ・ 高等教育セミナーの教員参加率は、中期計画評価指標となっております。
- ・ リアルタイムでのオンライン配信は行いません。当日出席が難しい場合、後日動画を御視聴のうえ、アンケートを提出することで出席扱いとします。
- ・ 高等教育セミナーは、事務局職員研修計画のうち「大学職員一般共通研修-大学職員としての能力・資質向上研修」に位置付けられています。